

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	成果と課題	改善方策等	
1 教育課程 学習指導	<p>①探究活動、体験活動、研究活動を充実させ、生徒一人ひとりの個性をいかした教育課程を編成するとともに、主体的な科目選択ができる系と分野のシステムを充実させる。</p> <p>②創造力、推進力、発信力の育成と学習習慣を確立させ、生徒一人ひとりが積極的に自己を伸ばさせるための学習を支援する。</p>	<p>①新教育課程の完成年度を見越し、生徒一人ひとりの学習や進路等、目標の実現に伝えるための魅力的な教育課程になっているかを検証し、課題を整理する。</p> <p>②生徒一人ひとりが主体的に学ぶために、授業力の向上と評価を一体化した取組を行うとともに、開かれた授業づくりの環境を整える。</p>	<p>①単位制や2学期制、セメスター制の特色を活かした教育課程を編成し、生徒一人ひとりの自己実現に向けた時間割を作成するための丁寧な履修指導や学習計画ガイダンスを実施する。</p> <p>②組織的な授業改善を充実させるため、生徒による授業評価と研究授業を連携させるとともに、科目ごとの独自アンケートを実施し教員自ら実態を把握し情報共有を図る。</p>	<p>①学習保障の観点や生徒自らの関心や進路に即した時間割を生徒一人ひとりが主体的かつ積極的に作成でき、生徒一人ひとりにとって、幅広い科目選択ができる編成になっているか。</p> <p>②生徒による授業評価が各項目90%以上になったか。また、生徒による授業評価を反映して研究授業を行い、研究報告を教職員間で情報共有し、組織的な授業改善を行うことができたか。</p>	<p>①新教育課程完成年度で、時間割作成上の制約が解消され、生徒はかなり高い自由度で科目選択ができ、セメスター制の特色を活かす編成となった。学習計画ガイダンスはいくつかのモデルを提示し担任や教育課程グループから丁寧に指導し、生徒を支援できた。</p> <p>②生徒による授業評価は7項目中5項目が90%以上になった。また、科目別で独自アンケートも行い、授業評価と、独自アンケートの結果を踏まえた研究授業を実践し、報告書による情報共有を行った。</p>	<p>①専門25単位の履修の選択科目の幅や新カリPTである課題を来年度以降、整理・検証する。また、継続課題になっている個人時間割作成時の膨大な作業について、調整作業の効率化や軽減化の具体的な方策が必要である。</p> <p>②90%を達成できなかった項目では「他者の考えを知る」であった。発表やグループワーク、ディスカッションなど、教員の一方的な授業ではなく、サポートやファシリテータに徹する授業展開を増やす必要がある。</p>	<p>○探究的な学習活動が大切である。深い学びは、生徒が主体的に学習活動に取り組み、得られた知識・技能をまとめ理解し、発信することであると思う。生徒の学習活動への教職員の適切なサポートをお願いする。</p> <p>○本校の教育活動は、探究的な学習に適していると思う。中学生・保護者へさらにPRしてほしい。</p> <p>○課題研究は本校において肝になる科目であると思う。</p>	<p>①セメスター制の特色を活かし、生徒の希望に沿った時間割を作成し、主体的な科目選択を支援することができた。科目を問わず探究的な学習活動を支援できる履修計画等の研究を行う。引き続き、調整業務の効率化・軽減化を工夫する。</p> <p>②研究授業や校内研修等で課題等を整理し教員間で共通の認識を持ち検討することで、個々の授業改善を推進することができた。引き続き、組織としての授業改善に取り組む。</p>	<p>①学習計画ガイダンスで選択幅や組合せを助言することで、生徒の興味・関心に則したモデルや、進路に則したモデルなどを具体的に提示できるようにする。</p> <p>②組織的な授業改善のもと、探究的な学習活動の支援、課題研究の充実を図り、生徒の学びを深める。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒一人ひとりの豊かな人間性を育み、生徒理解に基づく生徒指導や支援、教育相談体制を充実させる。また、安心して安全に希望をもって学べる学校をつくる。</p> <p>②生徒の主体性の育成に向け、学校行事や生徒会活動等を充実させる。</p>	<p>①生徒一人ひとりの規範意識の向上と、あらゆる場面で責任感と自覚を持って行動できるように継続的に指導する。また、組織的な支援体制の充実を図る。</p> <p>②学校行事や生徒会活動を通して生徒の良好な人間関係の形成、自己実現を支援する。</p>	<p>①年次会、全校集会などを通して規範意識を養う活動を推進するとともに、年次団、各グループと連携し自覚を持って行動できる責任感を醸成する。</p> <p>①年次団、関係グループと横断的に連携し、生徒一人ひとりの課題に対応できる組織づくりを行う。</p> <p>②各行事や部活動等、徐々にコロナ前の活動内容に戻すとともに、感染症対策のあり方を再考し、安全な行事運営や部活動の活性化を図る。</p>	<p>①安全・安心な学校生活に向けた取り組みの充実により、特別指導件数の減少がみられたか。また、名札の着用率が向上したか。</p> <p>①生徒一人ひとりの課題に組織的に対応するため、年次会、生徒情報共有会、いじめ対策会議、関係グループと協働することができたか。</p> <p>②コロナ前の活動内容に戻しながら、感染防止対策を講じたうえで行事運営が行えたか。各行事の生徒の充実度や満足度が80%以上となったか。</p>	<p>①全校集会の際に、交通安全や生徒心得の遵守について話をするので、規範意識を養う活動を推進した。</p> <p>①生徒のこころの悩みに対して年次会、SC、SSWと協働し、「かながわこどもサポートドック」等を活用し、早期対応が可能となった。</p> <p>②各行事ともコロナ前の内容に戻しながら運営することができた。特に文化祭では、地域の方の作品展示再開や、来場人数制限の撤廃等、感染予防対策を視野に入れながら実施することができた。また、文京夏祭りのボランティアに参加したことで途切れていた地域との繋がりを取り戻すことができた。</p>	<p>①生徒指導件数、名札の着用率ともに前年度よりも若干改善されたが、まだまだ十分ではない。日々の授業や集会等で伝え続けることが大切だと感じる。</p> <p>①こころの悩みを持つ生徒が多く、今後も年次会、SC、SSWと協働して対応していく。SCやSSWの常勤の必要性を強く感じている。</p> <p>②生徒会活動や学校行事等に関しては、さらに生徒の主体性が育つよう各行事の内容や取り組み方の工夫、組織の見直しを図る。体育祭に関しては団分け方法等改定後、初の開催となるためスムーズな運営に向け準備する。</p>	<p>①日ごろの指導に敬意を表します。特別指導案件が7件とのことであるが、生徒との距離を縮めるチャンスととらえ支援の手を差し伸べてほしい。</p> <p>①自転車のヘルメット着用率が低いと思う。なぜ、着用しなければいけないのか、生徒に考えさせる機会を与えることで、着用率が上がるのではないかと。</p> <p>①SCやSSWについては、県の施策もあり、すぐに勤務日の増加という見通しは立てられないと思うが、現状できることとして、学校内で調整し効率よく活用してほしい。</p> <p>②学校行事等をコロナ禍前に戻すための努力に感謝する。地域活動への生徒の協力に感謝する。許されるのであれば、高校生が自治会活動の企画に参加いただける機会があればうれしい。</p>	<p>①学校生活でのルール遵守、規範意識の向上は定着しつつある。他方、問題行動を起こす生徒もいる状況であることから、きめ細かな指導計画を作成し、全職員共通理解のもと未然防止の取組を充実させる。交通安全教育では生徒が主体的に考え行動できるよう、支援体制を構築する。</p> <p>①SCやSSWにつなぐ案件は増加傾向にある。定時制とも調整し効率よく活用することが課題である。</p> <p>②生徒会活動や部活動、各行事においては、年間を通して生徒の積極的な取り組みや活発な意見交換が行われ、生徒間の良好な人間関係が育まれた。学校行事では、生徒の主体的な取組を支援できた。</p>	<p>①定期的な朝の通学指導や昼休みの巡回指導、LHRを使った規範指導などを充実させる。また、名札の着用やTPOを意識した身だしなみ指導など、教職員の共通認識のうえで、計画・実施する。</p> <p>①SC・SSWにつなぐ案件の増加に対応できるように、外部機関を含め、環境整備を行う。</p> <p>②学校行事のさらなる充実のため、生徒とともに検討を重ねる。さらに、学校行事の時期を調整し、安全で安心して実施できるようにする。</p>
3 進路指導 ・支援	<p>社会で生きるために必要な知識や能力を身に付けるとともに、個々の進路希望を実現させ</p>	<p>生徒一人ひとりの主体的な進路選択を実現するために、キャリア</p>	<p>・各種ガイダンスおよび面談を適切に実施し、支援する。</p> <p>・計画的なアセスメント(模擬試験など)お</p>	<p>・各種ガイダンスおよび面談を適切に実施し、卒業時の進路未決定者を減少させることができたか。</p>	<p>・各種ガイダンス及び面談を適切に実施できた。</p> <p>・模擬試験は計画通り100%実施できた。イン</p>	<p>・生徒の進路実現のために、ガイダンスや資料を適切に提供し、早い段階からの意識付けを行う。</p>	<p>・生徒一人ひとりに主体的に考えさせ、ミスマッチのない進路指導を実現させてほしい。</p>	<p>・生徒一人ひとりの自己実現を支援することができた。その一方で進路選択に主体的ではない生徒・保護</p>	<p>・進路ガイダンスのみならず様々な機会を捉え、生徒が主体的に進路選択できるように保護者とも連携</p>

		<p>るための支援とキャリア教育を充実させる。</p>	<p>教育を推進し、進路支援体制を強化する。</p>	<p>よびインターンシップなどを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」を活用し、自己理解を深めさせ、社会とのかかわりや他者との共生について考える機会を設ける。 ・進路相談室及び自習スペースを整備し、生徒が進路活動を行いやすい環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を計画の80%以上実施することができたか。また、インターンシップに参加した生徒へのアンケート結果で「満足できる」が80%以上となったか。 ・「総合的な探究の時間」を活用し、自己のあり方、社会とのかかわりや他者との共生について考える機会を設けることができたか。 ・進路室の整備を行い、生徒が進路活動を行いやすい環境づくりができたか。 	<p>ターンシップは生徒の希望する就業先で実施し、生徒の満足度も高かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」では、「自己分析」や「SDGs」、「キャリア探究」について探究を行った。 「SDGs」では、上級学校の講師の方に各分野の取り組みについて講義していただき、知見を深めることができた。 ・進路相談室は資料等の整理を行ったことで、生徒の使用状況が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業教育や専門教育を深めるために、インターンシップや上級学校の公開講座への参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習活動は大学入試等でも重視されているので充実を望む。 	<p>者への支援の充実が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学のアドミッションポリシーや入試での重視される内容を研究し、総合的な探究の時間や課題研究等で、生徒の学習活動が深まるようあらゆる手立てを尽くしたい。 	<p>を密にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の動向を注視するとともに、本校の特色を活かした教育活動を展開し、自己実現を果たす生徒を増やす。
4	地域等との協働	<p>①積極的なボランティア活動を展開し、地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携を深め、地域に根ざした教育活動を推進する。</p> <p>②学校の情報を広く地域に発信し、地域と共にある学校づくりをさらに進める。</p>	<p>①コミュニティ・スクールを利活用するとともに、地域および他校種との連携を図り、生徒一人ひとりの主体性を育成する。</p> <p>②学校の取組や生徒の様子について、広報活動の活性化を図り充実させる。</p>	<p>①地域および大学や高専など他校種との連携を図り、生徒、保護者とともに積極的にイベントやボランティア活動に参加する。</p> <p>②ホームページ運用を学校全体として充実させるため、教職員の操作スキルを向上し、様々な行事に取り組む生徒の活動等を積極的に発信する。</p>	<p>①地域や他校種との連携、サポーターズや自治会等とともに地域に根差した教育活動を推進できたか。</p> <p>②ホームページ運用を学校全体で行い、生徒の活躍を画像や動画を含め、積極的に発信できたか。ホームページ講習会等で教職員全体の操作スキルを向上させられたか。</p>	<p>①本年度より新たに開催された複合イベントでは、本校から実行委員やLBT部が舞台技術等の支援で活躍し、地域や中学生と連携した。また、自治会の催しにジャズバンド部や大道芸部が参加し、地域と連携することができた。</p> <p>②行事や部活動のホームページ更新を各担当が行い、的確に情報発信することができた。</p>	<p>① 初めての複合イベントへの参加であり、地域や他校種との連携も限定的であった。今後は、さらに連携の幅を広げ、地域貢献を実施したい。</p> <p>② 各担当それぞれの操作スキルは向上したが、タイムリーな情報発信には、課題が残る。生徒の活躍をさらにアピールするためには、実施後3日以内の更新を目指す。</p>	<p>①地域のイベントでの協力は大変ありがたかった。引き続き若い力を貸していただきたい。</p> <p>②学校の様子が理解できるホームページ運用を期待する。</p>	<p>①地域連携行事や県域での広報活動を実践することができた。生徒の活躍の機会拡大と捉え、生徒が主体的に取り組めるよう環境整備を進める。</p> <p>②ホームページのタイムリーな更新について課題がある。課題解決のため教職員の操作スキルを向上させることが必要である。</p>	<p>①地域活性のプロジェクトや県域での広報活動に関わる生徒が増えるよう、生徒会と連携しアナウンスしていく。参加生徒へは、これらの活動と、日々の学習活動を関連付けられるよう支援する。</p> <p>②全教職員に向け、ホームページ講習会を実施する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①事故・不祥事の未然防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を向上させる。</p> <p>②生徒の防災意識を高め、防災教育を推進する。</p> <p>③教員や生徒、保護者など学校関係者が協力した、行事を事故なく執り行うとともに、生徒の学習成果発表などを積極的に発信する。</p> <p>④教員のライフワークバランスを推進するため教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①事故・不祥事をゼロとする。</p> <p>②防災教育の充実を図り、生徒一人ひとりの防災意識を高める。</p> <p>③グループ間で情報を共有し、生徒・保護者と共に式典などを滞りなく実施する。また、環境整備の充実を高める。</p> <p>④会議に係る時間を削減し、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①事故・不祥事防止会議等、あらゆる機会を捉え、教職員間で情報共有し、事故・不祥事ゼロを実現する。</p> <p>②生徒・教員等の学校関係者に対して、災害時の様々な状況下で、適切な行動が取れるよう、安全指導対策を計画し実践する。</p> <p>③生徒の協力により式典が一層充実するように努める。関係部署との連携を密にし、円滑な行事運営のための環境整備を図る。</p> <p>④会議スケジュールのSlim化およびペーパーレス化を図り、会議の準備や会議資料の整理等の時間を削減する。</p>	<p>①事故・不祥事がゼロであったか。</p> <p>②防災教育として、大規模災害時を想定した生徒・教員等の学校関係者が連携した訓練等を行うことができたか。</p> <p>③生徒および関係部署と連携を取り、式典を進行できたか。関係部署と情報が共有できたか。</p> <p>④事務書類の電子データ処理や各種会議のペーパーレス化が推進できたか。</p>	<p>①重大なヒヤリ・ハット事案を生じさせてしまった。このことを学校として事故と位置付け、早急な業務改善を要する。</p> <p>②防災訓練の集合形態等を変更し、現実的な防災訓練になった。防災備蓄品は、1年次生からご飯類・飲料・アルミシートを購入し、大規模災害や帰宅困難を想定した備蓄品となるようにした。</p> <p>③グループ間での情報共有をICT等の活用で迅速に行うことで、各種学校行事・式典を滞りなく実施することができた。</p> <p>④ICT等の活用で、勤務整理のための紙媒体を廃止し、ペーパーレス化を推進することができた。</p>	<p>①本校の教訓として記憶と記録に残し、事故を生じさせないという強い意思のもと、事故・不祥事を未然に防止できる体制を整えることが急務である。</p> <p>②防災訓練の充実を引き続き検討する。</p> <p>③引き続き、職員間のコミュニケーションツールとしてICT等の活用を推進し、充実した学校行事・式典を実施する。</p> <p>④会議資料の電子データ化を推進し、ペーパーレス化を推進する。あわせて、職員間のコミュニケーションツールとしてICT等の活用を推進し、会議時間の短縮を図る。</p>	<p>○会議資料からも学校運営にあたる先生方の業務の多忙さは容易に想像できる。日々の教育活動、業務遂行に感謝する。引き続き、確実で的確な業務遂行をお願いする。</p>	<p>①重大なヒヤリ・ハット事件を生じさせたことを学校として事故と位置付け、再発防止に全力で取り組んでいく。</p> <p>②授業途中からの防災訓練を実施し、現実的な訓練を実施できた。備蓄品について見直しを実施し、充実したものになった。</p> <p>③関係部署間でのICT等の活用により、情報共有を迅速に行うことで、式典等の行事を滞りなく実施できた。</p> <p>④教員のライフワークバランスについて、改善意識を醸成できた。引き続き、時間外勤務の縮小を目指す。会議や事務書類のペーパーレス化は徐々に進めているが、計画を立ててスピーディーに進める必要がある。</p>	<p>①事故・不祥事防止のための確実なチェック体制の構築が急務である。事故・不祥事防止会議の充実と全職員の意識向上を図る。</p> <p>②万が一に想定外をつくらぬよう、生徒主体の防災教育・減災教育を検討する。</p> <p>③関係部署間での引継ぎを確実にし、ICT等も活用して業務の効率化を図る。</p> <p>④教職員の健康は学校の活性化と充実した生徒指導・支援の絶対条件であることから、引き続き、衛生委員会等を活用して組織全体で考えていく。</p>